

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	Rainbow Kids Lab.			公表日	2026 年 3 月 27 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		人数、子ども同士の発達段階、特性や、相性等を踏まえた上で組み合わせを配慮している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		日々の利用人数、子どもの発達段階に応じて、必要な人数を配置している 予約調整、シフト調整等様々な配慮がなされている。	配置上は充足しているが、人数が増えるとより良い支援になると考える。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			建物の構造と療育の性質上、完全なバリアフリー化は難しい。 机上の部屋等は、個室で区切られている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		子どもたちの状況や活動内容に合わせて、場の選択をすることができる空間づくりがなされている。 使用玩具の消毒、室内の換気を行い、清潔な空間を維持するように努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		児童の状態や取り組みたい内容により、活動場所を変えることが出来るように努めている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		月に一度、事業所全体で会議を実施。 業務の取り組みを振り返り、業務改善や目標設定について話し合いを行っている。	属人化している業務についてもマニュアル化を進めていき、広く参画できるようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在は行っていない。 必要に応じて外部評価を取り入れていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		八王子市の主催する各研修を受講している。 月に一度事業者内研修を実施	職員による伝達研修の量を増やし、研修の進行役を担当として割り振りながら、学びの体制づくりを行う。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域との関連性を明確にした上で、個々の個別支援計画につながるよう作成し、自社のホームページにて公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員のモニタリング、療育中の様子を共有。 保護者より移行や生活の様子を聞き取った上で作成。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		事業所独自のアセスメントツールを使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		余暇活動等、集団プログラムの立案について、個々の発達段階を想定し、活動内容の魅力をも十分に引き出せるように展開している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		直近の取り組み内容を確認し、子どもの興味に合わせて変化をつけている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動を中心としているが、子どもの課題や様子に応じて、他児への関わり、小集団活動への参加等にも、焦点を当てながら作成し	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々の職員のシフト状況に応じて、担当するお子様の組み合わせを検討している。要対応箇所について、支援方針の伝達を行っている。	リーダー職員の育成を行い、経験年数の浅い職員への指導を充実していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		全体周知や検討が必要な内容について、記録を取った上で方針を確認。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎療育ごとに記録を取り、保護者からのフィードバック等も踏まえ、状況に応じて支援内容を見直している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の要望に応じて関係機関との連携を図り、情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の要望に応じて関係機関との連携を図り、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	現在、連携を行っていない。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	余暇活動等、地域行事に参加する機会を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の療育後のフィードバックの中で、最近の様子を伝えたり、保護者の方から共有していただいている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		ペアレントトレーニングのような家族支援プログラムの機会は設定できていない。ご要望やニーズをお伺いしながら、検討していく
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の方からの要望があった際、または必要に応じて個別の面談を実施し、助言・支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	保護者や兄弟での交流会は行っていない。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページ上でブログを公開している。次月予約時アンケートに掲載している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年に2回の避難訓練を実施している。また感染症研修なども行っていく。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者の方にフェイスシートの提出をしてもらっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		日常的に食事提供はないが、余暇活動の際など、食べ物を取り扱う活動である場合、事前に確認を取っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故防止研修や事例検討を行っている。ヒヤリハットの場面が起きた際には、報告書作成とともに話し合いの実施。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修の実施。市が開催する研修に参加。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				